

ソーシャル・サポート，学校生活満足度が 自律的高校進学動機に与える影響

筑波大学大学院（博）人間総合科学研究科 永作 稔

筑波大学心理学系 新井邦二郎

The effects of social support and satisfaction with school life on autonomic motivation to enter high school

Minoru Nagasaku and Kunijiro Arai (*Institute of Psychology, University of Tsukuba, Tsukuba, 305-8572, Japan*)

The purpose of this study is to investigate the effects of social support and satisfaction with school life on the autonomic motivation to enter high school. Social support and satisfaction with school life were adopted as notions corresponding to the notion of relatedness (Ryan & Deci, 2000). One hundred and sixty-three junior high-school students, who had already decided not to sit high-school entrance exams, completed three scales: the Scale for Autonomic Motivation to Enter high School (SAMES), the Scale of Expectancy for Social Support (SESS), and the Satisfaction with School Life Scale (SASLIS). Path analysis revealed that (a) Approval as a Classmate (AC) and expectations of support from friends and parents positively predicted autonomic motivation, while (b) Infringement and Maladjustment (IM) positively predicted non-autonomic motivation. Finally, some issues for the future are discussed.

Key words: autonomic motivation, social support, satisfaction with school, career decision-making

問題と目的

近年，中高一貫校への人気の高まりから，中学受験をする児童も少なくない。しかし，依然として高校受験は多くの生徒たちにとって生まれて初めての大きな進路選択と言えるだろう。このような人生上の大きな進路選択は，ときとして大きな悩みとして経験される。心理教育的援助サービスに対する中学生のニーズについて調査を行った石隈（1999）は，多くの生徒が学習や進路の問題を「悩み」として経験していることを指摘している。しかしながら，このような進路の問題について扱った研究は非常に少ない（永作・新井，印刷中，吉中・石井・下村・高綱・若松，2003）のが現状である。そして，望ましい進路指導や進路選択への援助はどのようなものか

といった議論については，教育学のなかでは検討されているものの（大根田・武田，1988；中央教育審議会，1999など），心理学的な視座からみて検討・考察しているものは少ない。例えば，文部省（1998）の中学校学習指導要領には「生徒が自らの生き方を考え，主体的に進路を選択することができるよう，学校の教育活動全体を通じ，計画的，組織的な進路指導を行うこと」とある。また，中央教育審議会（1999）は，キャリア教育を「自己の個性を理解し，主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」と定義している。このような記述のなかからは，「生徒が主体的に進路選択をできるように教育・指導すること」が望ましいという一貫した方向性が読み取れる。しかしながら，進路選択に悩む生徒たちに，どのように働きかけることが「主体的に

進路選択をすること」につながるのかといった心理的援助の視点については十分に検討されているとはいえない。さらに、「主体的に進路選択をすること」が卒業後の生活の質 (Quality of Life; 以下 QOL) 向上にどのように寄与するのかといった「主体的な進路選択」の意義については、まだまだ議論が不十分である。

永作・新井 (印刷中) はこうした問題意識を背景に、主体的な進路選択が高等学校進学後の学校適応にどのような影響を与えているか、自己決定理論 (Deci & Ryan, 1985, 2002) に基づいて検討を行った。その結果、高校進学に対してより自己決定的な進学動機を持つ事がその後の学校適応にポジティブな影響を与えている事が明らかになった。つまり、主体的な進路選択は高等学校への学校移行後の QOL 向上に寄与していたことが示され、それが動機づけという介入可能な心理変数によって説明されたのである。この結果を受け、永作・新井 (印刷中) は中学生へ進路指導・援助を行う上で、生徒が自己決定的な進学動機を持てるよう援助・指導することの重要性を指摘している。しかし、どのような要因が、自律的進学動機の内在化を促進し、自己決定性を高めているのかといった点についてはいまだ未検討のままである。

自己決定理論によれば、動機の内在化によって自己決定性は高められるとされており、この動機の内在化が行われるためには、有能性の欲求・自律性の欲求・関係性の欲求という3つの基本的欲求 (Deci & Ryan, 2002, Ryan & Deci, 2000) を充足することが必要であるとされている。本研究では、3つの基本的欲求の中で、関係性の欲求充足という概念に着目した。関係性の欲求充足に着目したのは、ソーシャル・サポートが中学生の高校受験に対する満足感や努力感に影響を与えていることを示した川原 (2000) や中学生における学校生活満足度と進路発達との関連について、比較的學校生活に適應している生徒の方が、適應していない生徒よりも進路発達が進んでいることを示した松井・佐藤 (2000) など、関係性の欲求充足と関連すると考えられる変数と中学生のポジティブな進路選択とを関連づけた研究が散見されたことによるものである。ソーシャル・サポートとは、他者との間の社会的支

援関係を指し、個人の持つ社会的ネットワークの大きさやネットワークを構成する成員間の緊密性などのような人間関係の構造を意味する (1) 社会的包絡、他者から援助を受ける可能性に対する期待あるいは援助に対する主観的評価を意味する (2) 知覚されたサポート、他者から実際に受けた援助を意味する (3) 実行サポートという3つの次元に分類される概念である (岡安・嶋田・坂野, 1993)。本研究で用いるソーシャル・サポートは (2) 知覚されたサポートのことを指す。一方、学校生活満足度とは、生徒が自分の存在や行動を級友や教師から承認されているかという「承認」と、生徒の不適應感やいじめ・冷やかしの被害の有無を表す「被害感・不適應」の2つの下位概念から構成され (河村, 1999)、主に學校生活における人間関係に関連した適應感、不適應感を表す概念といえる。これは、二次的・三次的教育援助サービス (石隈, 1999) を必要とする生徒を特定する為に開発された學校生活満足度尺度 (河村, 1999) によって測定される。

これらはいずれも自己決定理論において「他人につながっているという感覚であり、他人を大切に思ったり大切に思われたりする気持ち、そして、集団や自分のコミュニティへの所属感を持つこと (Deci & Ryan, 2002)」と定義される関係性の欲求充足にあたる概念であると考えられる。したがって、これらの変数は高校進学動機の内在化を促進する要因であると予測される。そこで、本研究では関係性の欲求充足に関連する心理変数であると考えられるソーシャル・サポートと學校生活満足度が自律的進学動機²⁾に与える影響について検討を行うこととした。親密な人間関係を構築していると知覚し、関係性の欲求が充足されることによって、動機の内在化が促進し、動機が自律的になる (Ryan, Stiller & Lynch, 1994) と考えられることから、周囲からのソーシャル・サポートを高く知覚するこ

2) 自律的進学動機とは、自己決定理論 (Deci & Ryan, 1985, 2002) に基づいて、永作・新井 (2003) が提唱した概念である。高等学校に進学する際の理由や内在化の程度を表す概念であり、自律的な動機から順に、統合的・内的調整、同一化的調整、外的・取り入れ調整という3つの下位概念からなる。同一化的調整は統合的・内的調整と外的・取り入れ調整の間に位置しているが、自己決定の連続体 (Ryan & Deci, 2000) の中では比較的自己決定性の高い動機とされており、本研究でも永作・新井 (印刷中) と同様やや自律的な進学動機として扱う。したがって、非自律的な進学動機とは外的・取り入れ調整のことを意味し、自律的な進学動機とは統合的・内的調整と同一化的調整を意味する。

1) ここでいう自己決定的 (自己決定性) とは、「求められた行動の価値や調整が、内在化し統合されている程度の違い (Ryan & Deci, 2000)」を意味している。本研究では自律的 (自律性)、主体的 (主体性) とほぼ同義であると考えられる。

と、及び学校生活満足度の「承認」が高いことは自律的な進学動機と関連し、学校生活満足度の「被侵害・不適応」が高いことは非自律的な進学動機と関連することが予想される。また、周囲からのソーシャル・サポートを高く期待することは、学校生活の適応感に関連することが考えられる。特に、友人や教師からのサポート期待が高ければ、「承認」は高く、「被侵害・不適応」は低くなると考えられる。したがって、ソーシャル・サポートが学校生活満足度に与える影響を検討し、さらにそれらが自律的・高校進学動機に対して与える直接的・間接的影響についても検討を行う。

方 法

被調査者

茨城県内の公立中学校 2 校の 3 年生163名 (男91名 女72名 平均年齢14.87±0.34歳)

調査日時

2004年1月。

実施方法

学級担任によりクラス単位で授業時間中に一斉に実施した。また、より正確な実施が可能となるように、具体的方法や注意事項を記した「調査の手引き」を作成し各担任教師に配付した。

調査材料

- ①自律的・高校進学動機尺度 (外的・取り入れの調整，同一化的調整，統合的・内的調整；30項目 5 件法；永作・新井，2003)。「あなたが高校 (高専なども含む) に進学したいと思っている理由について、以下の項目を読んでそれぞれ自分の気持ちに最も近いと思われる数字に○をつけて下さい」という指示のもと、「全く当てはまらない (1)」～「非常に良く当てはまる (5)」の間で評定を求めた。
- ②学校生活満足度尺度 (承認，被侵害・不適応；20項目 5 件法；河村，1999)。「全く当てはまらない

(1)」～「非常に良く当てはまる (5)」の間で評定を求めた。

③ソーシャル・サポート尺度中学生版 (親サポート，友人サポート，教師サポート；16項目 4 件法；岡安他，1993)。岡安他 (1993) の原尺度では，父親，母親それぞれからの程度援助が期待できるかについて評定する形式となっているが，本研究ではどちらかの親がいない生徒などへの倫理的な配慮から，援助を期待する対象を「両親・保護者」と設定し，評定を求めた。評定は「絶対ちがう (1)」から「きっとそうだ (4)」までで，値が大きいほど，知覚されたソーシャル・サポートへの期待が高いように得点化した。

結 果

相関分析

まずは，自律的・高校進学動機尺度，学校生活満足度尺度，ソーシャル・サポート尺度の各下位尺度得点間の相関係数を求めた。その結果を Table 1 に示す。その結果，すべてのサポート源と同一化的調整，統合的・内的調整との間に ($r = .18 \sim .48$) の有意な正の相関がみられた。したがって，周囲からのソーシャル・サポートを高く知覚することは自律的・高校進学動機と関連するだろうという仮説は支持された。

次に，学校生活満足度尺度の「承認」と自律的・進学動機との関連を見ると，同一化的調整との間に弱い正の相関 ($r = .29, p < .01$) が，統合的・内的調整との間に中程度の正の相関 ($r = .51, p < .01$) がみられた。したがって，学校生活満足度の「承認」が高いことは自律的・進学動機と関連するだろうという仮説も支持されたといえる。また，学校不適応の指標である「被侵害・不適応」との関連では外的・取り入れの調整の間に弱い正の相関 ($r = .23, p < .01$) がみられた。以上のことから，「被

Table 1 相関分析結果

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
①外的取り入れの調整							
②同一化的調整	.35**						
③統合的・内的調整	.20*	.54**					
④承認	.04	.29**	.51**				
⑤被侵害・不適応	.23**	-.01	-.25**	-.36**			
⑥親サポート	.12	.39**	.43**	.38**	-.35**		
⑦教師サポート	.06	.23**	.37**	.35**	-.25**	.48**	
⑧友人サポート	-.02	.18*	.48**	.58**	-.57**	.50**	.44**

* $p < .05$ ** $p < .01$

侵害・不適応」が高いことは非自律的な進学動機と関連するという仮説も支持され、仮説はすべて支持された。

校進学動機への直接の影響は見られなかった。

考 察

パス解析

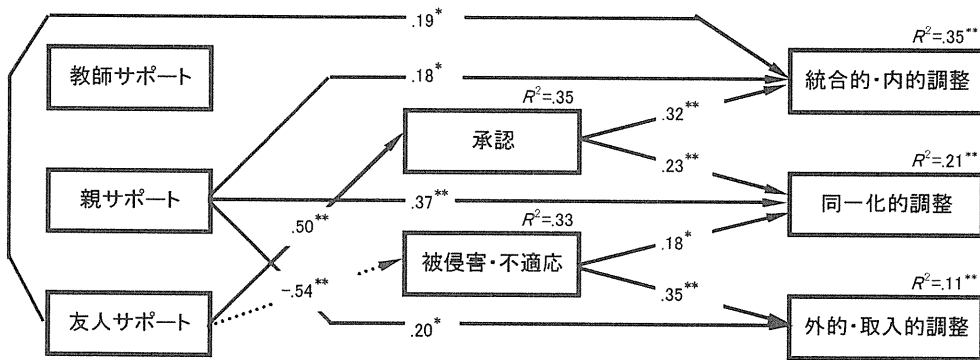
次に、ソーシャル・サポートと学校生活満足度が自律的・進学動機に与える影響について検討を行った。ソーシャル・サポートと学校生活満足度の関係を考えると、周囲からサポートを受けることができるという期待することは、学校生活において承認されているという感覚を高め、侵害を受けることによる不適応感を低めると考えられる。

したがって、ソーシャル・サポートが学校生活満足度を媒介して自律的・進学動機に与える影響を検討するため、パス解析を行った。その結果をFig. 1に示す。パス解析の結果、友人サポートの高さは承認 ($\beta = .50, p < .01$) の高さと同様に被侵害・不適応 ($\beta = -.54, p < .01$) の低さを説明することが示された。さらに、承認は同一化的調整 ($\beta = .23, p < .01$)、統合的・内的調整 ($\beta = .32, p < .01$) を説明していた。また、被侵害・不適応 ($\beta = -.54, p < .01$) は、外的調整 ($\beta = .35, p < .01$)、同一化的調整 ($\beta = .18, p < .05$) に影響を与えていた。しかしながら、予想に反して教師サポートは学校生活満足度に影響を及ぼしていなかった。

一方、親サポートは、外的調整 ($\beta = .20, p < .05$)、同一化的調整 ($\beta = .37, p < .001$)、統合的・内的調整 ($\beta = .19, p < .05$) にそれぞれ正の影響を与えていた。また、友人サポートは統合的・内的調整 ($\beta = .18, p < .05$) に直接の影響を与えていることも示された。教師サポートから自律的・高

本研究の目的は、関係性の欲求充足に関連する心理変数であると考えられるソーシャル・サポートと学校生活満足度が自律的・進学動機に与える影響について検討を行うことで、中学生に主体的な進路選択を促すための援助の可能性について検討することであった。相関分析の結果から、ソーシャル・サポートを高く認知している生徒は自律的な進学動機を有していることが示された。また、承認されていると認知している生徒も自律的な進学動機を有し、反対に侵害され不適応感があると認知している生徒は非自律的な進学動機を有しているということが明らかになった。また、パス解析の結果から、友人、親からのソーシャル・サポートは直接、または学校生活満足度を媒介して、自律的・進学動機に影響を与えていることが示された。これらは、親密な人間関係を構築していると知覚し、関係性の欲求が充足されることによって、動機の内化が促進し、動機が自律的になるというDeci & Ryan (2002) やRyan et al. (1994) を支持する結果であったと言えよう。したがって、自律的な進学動機を育成するためにはソーシャル・サポートの期待を高め、学校生活において周囲から承認されているという感覚を持つことができるように援助することが重要であると考えられる。

他方、相関分析では教師サポートと自律的・進学動機、学校生活満足度の間に有意な相関関係が示されるものの、パス解析で相互の影響を統制すると、教師サポートは学校生活満足度にも自律的・高



* $p < .05$, ** $p < .01$

Fig. 1 パス解析結果

進学動機にも有意な影響を及ぼしていなかった。学校生活満足度の項目には「学校内で私を認めてくれている先生がいると思う」など、教師との関係を問う項目が含まれているにも関わらず、このような結果になったのは意外であった。また、高等学校に進学するにあたり、その価値を内在化する過程で教師が果たす役割は決して小さくないと考えられる。よってここで、教師との関係性が「承認」や進学動機の内在化に全く影響しないと結論づけるのは早計であろう。この点はさらに検討を重ねる必要があると考えられる。

また、同一化的調整には「承認」からも「被侵害・不適応」からも正の影響があるという結果が示されていた点や、親サポートから全ての進学動機に正の影響が示されていた点も、興味深い。「承認」が統合的・内的調整に影響を与えることや、「被侵害・不適応」が外的・取り入りの調整に影響を与えることは予想されたが、どちらも同一化的調整に正の影響を与えるという結果が示された。同一化的調整とは、具体的な項目として「自分の学力を上げたから」「進学のための勉強をしたと思ったから」といったものがあり、永作・新井(2003)は「特に学業面に関するものが中心となっている」と述べている。つまり、学業面での向上や大学や短大等への進学を目的として高等学校に進学するという意識を表す変数であるといえる。周囲から承認されているという感覚を持っていることによって、このようなポジティブな意識を育む環境が生まれやすいだろうということは考えられるものの、周囲から侵害を受け不適応を認知していることが同一化的調整に影響を及ぼすという点については、不明な点が多い。この点についても、さらに検討を重ねる必要があると考えられる。また、親サポートはすべての動機に有意な正の影響を与えていた。したがって、親からのサポートを期待できると認知することは、自分が気に入ったからなど自律的な意識を持つ統合的・内的調整、学業面での向上や大学や短大等への進学を目的として高等学校に進学するという同一化的調整、他人に統制されているという感覚を持っている外的・取り入りの調整のそれぞれに影響を与えているということになる。つまり、親からサポートを期待できると認知することは、自律的な進学動機にもつながるが、同時に非自律的な進学動機にもつながることを示している。仮に、親からのソーシャル・サポートの期待が高いということを親との心理的距離が近いと解釈すると、心理的距離が近いということが親密な関係を生み、動機の内在化につながる一方で、同時に親からの統制的な干渉力の強さに

もつながる可能性があるということを示しているのだろうか。しかし、これはあくまでの可能性について論じているに過ぎない。なぜこのような結果となったのかという点についても、今後検討していく必要があるだろう。

最後に、本研究では関係性の欲求充足と自律的・進学動機との関係を検討したが、有能性の欲求充足や自律性の欲求充足と自律的・進学動機との関連も併せて検討し、進学動機の内在化に関して包括的に議論していくことが今後重要になってくると考えられる。渡辺・ハー(2001)も指摘するように、文部省(1998)や中央教育審議会(1998)が示す、「生徒が主体的な進路選択ができるように教育・指導する」という方向性は十分に妥当であると考えられる。しかし、「主体的に選択することを教える」ということは、決して簡単なことではない。なぜならば、「自分で考えて決めなさい」と伝えた時点で、その選択は教師あるいは親からの一言によって始動した選択になってしまうという本質的な矛盾があるからである。本研究で示された、「関係性の欲求充足を支援することが自律的(主体的)な進路選択につながる」という結果は、進路指導・援助におけるこのような本質的な矛盾に対する「有効な解決策」の一つになっていくのではないだろうか。

引用文献

- Deci, E.L. & Ryan, R.M. 1985 *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior*. New York; Plenum.
- Deci, E.L., & Ryan, R.M. 2002 *Handbook on Self-Determination Research*. New York: University of Rochester Press.
- 石隈利紀 1999 学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス 誠信書房
- 川原誠司 2000 中学生の高校受験に際してのソーシャル・サポート—心理的側面への影響に焦点を当てて— 宇都宮大学教育学部紀要, 50, 175-191.
- 河村茂雄 1999 生徒の援助ニーズを把握するための尺度の開発—学校生活満足度尺度(高校生用)の作成 岩手大学教育学部研究年報, 59, 111-120.
- 松井賢二・佐藤優子 2000 中学校の学校適応と進路(キャリア)成熟, 自己肯定感との関係(Ⅱ) 新潟大学教育人間科学部紀要(人文・社会科学

- 編), 4, 237-247.
- 文部省 1998 中学校学習指導要領
- 永作 稔・新井邦二郎 2003 自律的高校進学動機尺度作成の試み 筑波大学心理学研究, 23, 175-182.
- 永作 稔・新井邦二郎 印刷中 自律的高校進学動機と学校適応に関する短期縦断的検討 教育心理学研究.
- 岡安孝弘・嶋田洋徳・坂野雄二 1993 中学生におけるソーシャル・サポートの学校ストレス軽減効果 教育心理学研究, 41, 302-312.
- 大根田充男・小口清治・武田圭太 1988 高等学校進学に伴う進路指導上の課題 宇都宮大学教育学部紀要, 38 133-153.
- Ryan, R.M. & Deci, E.L. 2000 Self-determination theory and the facilitation of intrinsic motivation, social development, and well-being. *American Psychologist*, 55, 68-78.
- Ryan, R.M. & Stiller & Lynch, 1994 Representations of relationships to teachers, parents, and friends as predictors of academic motivation and self-esteem. *Journal of Early Adolescence*, 14, 226-249.
- 中央教育審議会 1999 21世紀を展望した我が国の教育の在り方について
- 渡辺三枝子・E.L.ハー 2001 キャリアカウンセリング入門 ナカニシヤ出版
- 吉中 淳・石井 徹・下村英雄・高網睦美・若松養亮 2003 中学生・高校生の職業知識の広がりと言職業関心に関する研究 進路指導研究, 22, 1-12.

(受稿3月22日:受理5月31日)